

研究課題名 子宮頸がん検診の現状と今後—高精度で効率的な検診で検診間隔は延長できるのか—

本研究は、ちば県民保健予防財団倫理審査委員会の承認を得て理事長が許可した倫理審査研究番号 29-17「子宮がん検診における、液状化検体法（LBC）及び細胞診・HPV 併用検診の有用性に関する研究」及び倫理審査研究番号 29-3「CIN（Cervical intraepithelial neoplasia）症例の Follow-up に於ける HPVtyping の臨床的有用性に関する検討」で得た研究結果等を用い再度子宮頸がん検診の現状を見直し、今後高精度で効率的な検診で検診間隔が見直せるか否かを再検討することで、若年世代の検診受診率向上、検診間隔の適正化に有用な情報を提供することが出来ます。

本研究における個人情報等の扱いは、すでに個人情報は削除されているデータの分析を行います。

本研究についてのお問合せ等につきましては、下記までご連絡ください。

研究責任者

公益財団法人ちば県民保健予防財団

検査部病理・細胞診断科 科長代理 立花美津子